

# 私の一文字「道」

副代表幹事・専務理事  
橋本 圭一郎



## 究極を求め、“道”を究める

会員の方が思いを込めて選んだ一字に、書家の岡西佑奈さんが命を吹き込む「私の一文字」。今月は、橋本圭一郎副代表幹事・専務理事にご登場いただきました。

**岡西** 「道」という漢字は「十字路」を表す「辵」と、目と髪を強調した「頭」、つまり「首」から成っています。古代中国では、異国に侵入する際にはその部族の人間の首をはね、邪気を祓うためにその首を持って道を進んだことから、この漢字ができたといわれています。橋本さんは、なぜこの文字を選ばれたのですか。

**橋本** 私は禅の「随处作主 立处皆真」を座右の銘としています。臨済宗の開祖・臨済義玄禅師の「臨済録」の中でも特に有名な言葉ですが、私は「いっどこにいても、どんな立場でも何物にもとらわれず、常に主体性を持って一生懸命行動すれば、そこが自分を活かす場所となる」と解釈しています。日本は今や終身雇用制が崩れ、転職が当たり前の時代です。そんな中で、どの道を選んでも自分の責任において、主体的に取り組んでいくことがますます必要になってきます。道は座右の銘にもつながります。私も物事に主体性を持ってあたっていきたいと思っています。

**岡西** 私も禅が大好きで修行も行っています。

**橋本** 岡西さんの書道もそうだと思いますが、芸道でも剣道でも何事にも基本があると思うんですね。ある程度辛抱して基本を身に付けないと、次の段階に進めない。基本が身に付いてから自分の個性や自分なりのやり方が出てくる。つまらないと思われる仕事でも辛抱して前向きな姿勢で臨

めば、精神的な面も含めて別の世界が広がる。「道」を究めるということは専門性、究極なものを究めていくということにつながる言葉だと思います。そういう意味でも、「道」という言葉は技術的にも精神的にも非常に意味が広い。皆、「道」を究めると簡単に使っていますが、非常にいろんなケースに適用できる言い方であって、ものすごく大事な言葉だと思うんです。

**岡西** おっしゃる通りだと思います。「道」は一本ではなく、それぞれの考え方や生き方によって枝分かれをし、その途中で出会いや別れという人生の交差点を幾度も通り過ぎる。それが「道」ですね。経済同友会に関しても、橋本さんはどのような「道」を進めていかれるのか、お話しいただければと思います。

**橋本** 専務理事は事務方を束ねる立場にあります。事務方を統括する立場として代表幹事を補佐していく。同時に、会員の皆さんが活動しやすい環境をつくっていくことが一番の仕事だと思っています。その中で会員の皆さんが思うことやなされることをまとめて提言していく。縁の下の力持ちではないですが、80人のスタッフと共にやっていきたいと思っています。

**岡西** 皆さんの道標ですね。

**橋本** どこまでできるか分かりませんが、せっかく今までとは違う「道」に引っ張っていただきましたので、会員の方々が自由に主体的に活動できることを主体的にやっていくことが、この「道」に入った、私のやらなければいけないことかなと思っています。

書家  
岡西 佑奈

1985年3月生まれ。23歳で書家として活動を始め、国内外受賞歴多数。

